# STAR フレールモーア

# 取 扱 説 明 書

製品コード K43129 · K43130 · K43131 - K43132 式 MSM1200 · MSM1200-0S · MSM1200-3S · MSM1200-4S 刑 製品コード K43155 · K43156 · K43157 · K43158 型 MSM1210 - MSM1210-0S - MSM1210-3S - MSM1210-4S 製品コード K43127 · K43136 · K43137 · K43138 MSM1400 · MSM1400-0S · MSM1400-3S · MSM1400-4S 型 式 製品コード K43162 · K43163 · K43164 · K43165 型 式 MSM1410 • MSM1410-0S • MSM1410-3S • MSM1410-4S 製品コード K43128 · K43142 · K43143 · K43144 型 式 MSM1600 • MSM1600-0S • MSM1600-3S • MSM1600-4S 製品コード K43169 · K43170 · K43171 · K43172 式 型 MSM1610 - MSM1610-0S - MSM1610-3S - MSM1610-4S 製品コード K43148 · K43149 · K43150 · K43151 式 型 MSM1800 • MSM1800-0S • MSM1800-3S • MSM1800-4S 製品コード · K43177 K43176 · K43178 · K43179 型 MSM1810 - MSM1810-0S - MSM1810-3S - MSM1810-4S 龙

部品ご注文の際は、ネームプレートをお確かめの上部品供給型式を必ずご連絡下さい。

"必読"機械の使用前には必ず読んでください。

# 株式会社IHIスター



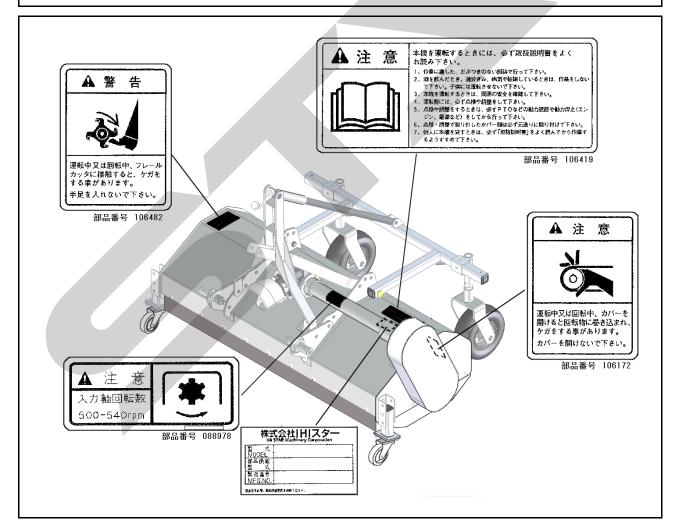
### ・ 安全に作業するために

#### 安全に関する警告について

本機には、 即付きの警告ラベルを貼付しています。安全上、特に重要な項目を示しています。 警告を守り、安全な作業を行ってください。

#### 警告ラベルについて

- その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性が **危険** 高いことを示します。
- ・ 注 意 その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれがあることを 示します。



#### - ラベルが損傷した時は -

警告ラベルは、使用者および周囲の作業者などへ危険を知らせる大切なものです。 ラベルが損傷した時は、すみやかに貼り替えてください。 注文の際には、この図に示す部品番号をお知らせください。

#### 安全操作上の注意点

ここに記載されている注意事項を守らないと、死 亡を含む傷害を生じる恐れがあります。

作業前には、作業機およびトラクタの取扱説明書 をよくお読みになり、十分に理解をしてからご使用 ください。

#### 作業前に

#### - 取扱説明書は製品に近接して保存を

#### 注意

・機械の取り扱いで分からない事があった時、取扱説明書を製品に近接して保存していないため、 自分の判断だけで対処すると思わぬ事故を起こ し、ケガをする事があります。

取扱説明書は分からない事があった時にすぐに 取り出せるよう、製品に近接して保存してくだ さい。

#### - 取扱説明書をよく読んで作業 -

#### ・注意

・取扱説明書に記載されている安全上の注意事項 や取扱要領の不十分な理解のまま作業すると、 思わぬ事故を起こす事があります。

作業を始める時は、製品に貼付している警告ラベル、取扱説明書に記載されている安全上の注 意事項、取扱要領を十分に理解してから行って ください。

#### こんな時は運転しないでください

#### ・警告

- ・体調が悪い時、機械操作に不慣れな場合などに 運転すると、思わぬ事故を起こす事があります。 次の場合は、運転しないでください。
  - □ 過労、病気、薬物の影響、その他の理由に より作業に集中できない時。
  - □酒を飲んだ時。
  - □ 機械操作が未熟な人。
  - □ 妊娠している時。

#### - 服装は作業に適していますか

#### • 警 告

・作業に適さない服装で機械を操作すると、衣服 の一部が機械に巻き込まれ、死亡を含む傷害を まねく事があります。

次に示す服装で作業してください。

□袖や裾は、だぶつきのないものを着用する。

□ズボンや上着は、	だぶつきのないものを着
用する。	

□ヘルメットを着用する。

□ はちまき、首巻きタオル、腰タオルなどは しない。

#### 機械を他人に貸す時は

#### • 警告

・機械を他人に貸す時、取扱説明書に記載されている安全上の注意事項や取扱要領が分からないため、思わぬ事故を起こす事があります。 取扱い方法をよく説明し、取扱説明書を渡して使用前にはよく読むように指導してください。

#### 機械の改造禁止

#### ・注意

・機械の改造や、当社指定以外のアタッチメント ・部品などを取り付けて運転すると、機械の破 損や傷害事故をまねく事があります。

機械の改造はしないでください。

アタッチメントは当社指定製品を使用してください。 部品交換する時は、当社が指定するものを使用してください。

#### 始業点検の励行

#### ・注意

・始業点検を怠ると、機械の破損や障害事故をま ねく事があります。

作業を始める前には、取扱説明書に基づき点検 を行ってください。

#### エンジン始動・発進する時は -

- ・エンジンを始動する時、トラクタの横やステップに立ったまま行うと、緊急事態への対処ができず、運転者はもちろん周囲にいる人がケガをする事があります。運転席に座り、周囲の安全を確認してから行ってください。
- ・エンジンを始動する時、主変速レバーを「N」 (中立)にして行わないと、変速機が接続状態になっているため、トラクタが暴走し思わぬ事故を起こす事があります。

主変速レバーを「N」(中立)にして行ってください。

・PTOを切らないでエンジンを始動すると、急に作業機が駆動され、周囲にいる人がケガをする事があります。

PTOを切ってから始動してください。

・急発進するとトラクタ前輪が浮き上がる事があ り、運転者が振り落とされたり、周囲の人を巻 き込んだり、思わぬ事故を起こす事があります。 周囲の安全を確認し、ゆっくりと発進してくだ さい。

・室内で始動する時、排気ガスにより中毒になる 事があります。

窓、戸などを開け、十分に換気してください。

#### - 作業機を着脱する時は -

#### • 警告

・トラクタの3点リンクに作業機を着脱するため にトラクタを移動させる時、トラクタと作業機 の間に人がいると、挟まれてケガをする事があ ります。

トラクタと作業機の間に人を近づけないでください。

#### ・注意

- ・作業機をトラクタに着脱する時、傾斜地や凹凸 地または軟弱地などで行うと、トラクタが不意 に動き出し、思わぬ事故を起こす事があります。 平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- ・装着するトラクタによっては、前輪荷重が軽くなり、操縦が不安定となって、思わぬ事故をまねく事があります。トラクタへフロントウエイトを取り付け、バランスを取ってください。

#### パワージョイントを使用する時は

#### · 危 険

- カバーのないパワージョイントを使用すると、 巻き込まれてケガをする事があります。 カバーのないパワージョイントは、使用しない でください。
- ・カバーが損傷したまま使用すると、巻き込まれてケガをする事があります。 損傷したらすぐに取替えてください。

使用前には、損傷がないか点検してください。

- ・トラクタおよび作業機に着脱する時、第三者の 不注意により、不意にパワージョイントが回転 し、ケガをする事があります。
  - PTOを切り、トラクタのエンジンをとめて行ってください。
- カバーのチェーンを取付けないで使用すると、 カバーが回転し、巻き込まれてケガをする事が あります。

トラクタ側と作業機側のチェーンを回転しない所に連結してください。

#### ・注意

・最伸時の重なりが 100 mmを下回ると、ジョイントを回転させた時、破損しケガをする事があります。

最縮時の隙間が25mmよりも小さくなると、ジョ

- イントの突き上げが起きる事があり、ジョイントの破損をまねき、ケガをする事があります。 適正な重なり量で使用してください。
- ・パワージョイントを接続した時、クランプピン が軸の溝に納まっていないと、使用中に外れ、 ケガをする事があります。

溝に納まっているか、接続部を押し引きして確 かめてください。

#### — 公道走行時は作業機の装着禁止 —

#### ・注意

・トラクタに作業機を連結して公道を走行すると、 道路運送車輌法に違反します。トラクタに作業機を連結しての走行はしないでください。

#### 移動走行する時は

#### 危険

・移動走行する時、トラクタのブレーキペダルが 左右連結されていないと、片ブレーキになり、 トラクタが左右に振られ横転などが起こり、思 わぬ事故をまねく事があります。

ほ場での特殊作業以外は、ブレーキペダルは左 右連結して使用してください。

#### · 警 告

・トラクタに運転者以外の人を乗せると、トラクタから転落したり、運転操作の妨げになって、 緊急事態への対処ができず、同乗者はもちろん、 周囲の人および運転者自身がケガをする事があります。

トラクタには、運転者以外の人は乗せないでください。

- ・急制動・急旋回を行うと、運転者が振り落とされたり、周囲の人を巻き込んだり、思わぬ事故を起こす事があります。
  - 急制動・急旋回はしないでください。
- ・坂道・凹凸地・急カーブで速度を出しすぎると、 転倒あるいは転落事故を起こす事があります。 低速走行してください。
- ・旋回する時、作業機が旋回方向とは逆方向にふくれるため、周囲の人に接触しケガをさせたり、対向物・障害物の衝突しケガをする事があります。

周囲の人や対向物・障害物との間に十分な間隔 を保って行ってください。

- ・側面が傾斜していたり、側溝がある通路で路肩 を走行すると転落事故を起こす事があります。 路肩は走行しないでください。
- ・高低差が大きい段差を乗り越えようとすると、

トラクタが転倒あるいは横転し、ケガをする事があります。あゆみ板を使用してください。

・作業機の上に人を乗せると、転落し、ケガをする事があります。

また、物を載せて走行すると、落下し、周囲の の人へケガを負わせる事があります。

作業機の上には、人を乗せないでください。

#### ・注意

・作業機への動力を切らないで走行すると、周囲 の人を回転物に巻き込み、ケガを負わせる事が あります。

移動走行する時は、PTOを切ってください。

#### 作 業 中 は

#### - 作業する時は

#### • 警告

- ・作業をする時、周囲に人を近づけると、機械に 巻き込まれ、ケガをする事があります。 周囲に人を近づけないでください。
- ・作業機指定のPTO回転数を超えて作業すると、 機械の破損により、ケガをする事があります。 指定回転数を守ってください。
- 作業機の上に人を乗せると、転落し、ケガをする事があります。

また、物を載せて作業すると、落下し、周囲の 人へケガを負わせる事があります。

作業機の上には、人や物などはのせないでください。

・傾斜地で速度を出しすぎると、暴走事故をまね く事があります。

低速で作業してください。

下り作業をする時、坂の途中で変速すると、暴 走する原因となります。

坂の前で低速に変速して、ゆっくりとおりてく ださい。

・わき見運転をすると、周囲の障害物の回避や、 周囲の人への危険回避などができず、思わぬ事 故を起こす事があります。

前方や周囲へ、十分に注意を払いながら運転してください。

- ・手放し運転をすると、思わぬ方向へ暴走し、事 故を起こす事があります。
  - しっかりとハンドルを握って運転してください。
- ・ハウス内などの室内作業をする時、排気ガスにより中毒になる事があります。

窓、戸などを開け、十分に換気をしてください。

#### ・注意

・機械の調整や、付着物の除去などを行う時、P

TOおよびエンジンをとめずに作業すると、第 三者の不注意により、不意に作業機が駆動され、 思わぬ事故を起こす事があります。

PTOを切り、エンジンをとめ、回転部や可動 部がとまっていることを確かめて行ってくださ い。

#### - トラクタから離れる時は

#### • 警告

・トラクタから離れる時、傾斜地や凹凸地などに 駐車すると、トラクタが暴走して思わぬ事故を 起こす事があります。

平坦で安定した場所に駐車し、トラクタのエンジンをとめ、駐車ブレーキをかけて暴走を防いでください。

・トラクタから離れる時、作業機をあげたままに しておくと、第三者の不注意により不意に降下 し、ケガをする事があります。

下限まで降ろしてからトラクタを離れてください。

#### 作業が終わったら

#### - 機体を清掃する時は -

#### ・注意

・動力を切らずに、回転部・可動部の付着物の除 去作業などを行うと、機械に巻き込まれてケガ をする事があります。

PTOを切り、エンジンをとめ、回転部や可動 部がとまっている事を確かめて行ってください。

#### - 終業点検の励行

#### ・注意

・作業後の点検を怠ると、機械の調整不良や破損 などが放置され、次の作業時にトラブルを起こ したりケガをする事があります。

作業が終わったら、取扱説明書に基づき点検を 行ってください。

・3点リンクで作業機を持ち上げて点検・調整を 行う時、第三者の不注意により、不意に降下し、 ケガをする事があります。

トラクタ3点リンクの油圧回路をロックして行ってください。

#### 不調処置・点検・整備をする時

#### ・注意

- ・ナイフを、研磨する時、目に飛散物が入りケガ をする事があります。
- 保護メガネを着用してください。
- ・機械に異常が生じた時、そのまま放置すると、 破損やケガをする事があります。 取扱説明書に基づき行ってください。
- ・傾斜地や凹凸地または軟弱地などで行うと、トラクタや作業機が不意に動き出して、思わぬ事故を起こす事があります。
- 平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- ・PTOおよびエンジンをとめずに作業すると、 第三者の不注意により、不意に作業機が駆動 され、思わぬ事故を起こす事があります。 PTOを切り、エンジンをとめ、回転部や可動 部がとまっていることを確かめて行ってくださ い。
- ・作業機をあげた状態のまま下にもぐったり、足 を入れたりすると、不意に降下しケガをする事 があります。
- 下に入る時は、台などで降下防止をして行ってください。
- ・不調処置・点検・整備のために外したカバー類 を取付けずに作業すると、回転部や可動部に巻 き込まれ、ケガをする事があります。 元通りに取り付けてください。



### もくじ

## ・安全に作業するために

	ついて	警告につ	こ関する	安全に
]	に	前	業	作
	は	中	 業	作

作	業	が	終	わ	2	たら	••••	••	t

不調処置・点検・整備をする時

# 1 トラクタへの装着

	1 各部の名称とはたらき	8
		10
_	3 組 立 部 品	10
	4 トラクタへの装着	10
	1. 装着前の準備 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	10
	2. 標準タイプの装着・・・・・・・	11
	3.0S、3S、4Sタイプの装着	11

5 ハリーショイン	↑ 装 有  ・・・・・・13
1. 長さの確認方法	······13

2.	切断方法	•••	• • • • •	•••••1	4
3.	安全カバー	-の脱着方法	• • • •	1	4

4. パワージョイントの連結	•••••14
----------------	---------

(1) 作業機への連結	•••••	••••14
①標準タイプ、3Sタ	イプの場合	••••14

(2)	4Sタイプの場合	•••••14

(3)	0Sタイプの場合	14
9		1.1

#### (3) 安全カバーチェーンの固定 ・・・・・15

# 2 運転を始める前の点検

1	運	転	前	の	点	検	]	••••15
1	. 1	トラク	タ各語	部の)	点検	• • • • • •	• • • • •	····15
2	. 连	基結部	の点材	<b>负</b> •				····15
	(1)	3点	リンク	の迫	車結音	『点検	• • • • •	····15
	(2)	パワ	ージ	ョイ、	ントの	り点検・		····15
3	. 5	フレー	ルモー	ーア	の点核	<b>负 · · · ·</b>		····15

2	エンジン始動での点検	•••••15
	-	

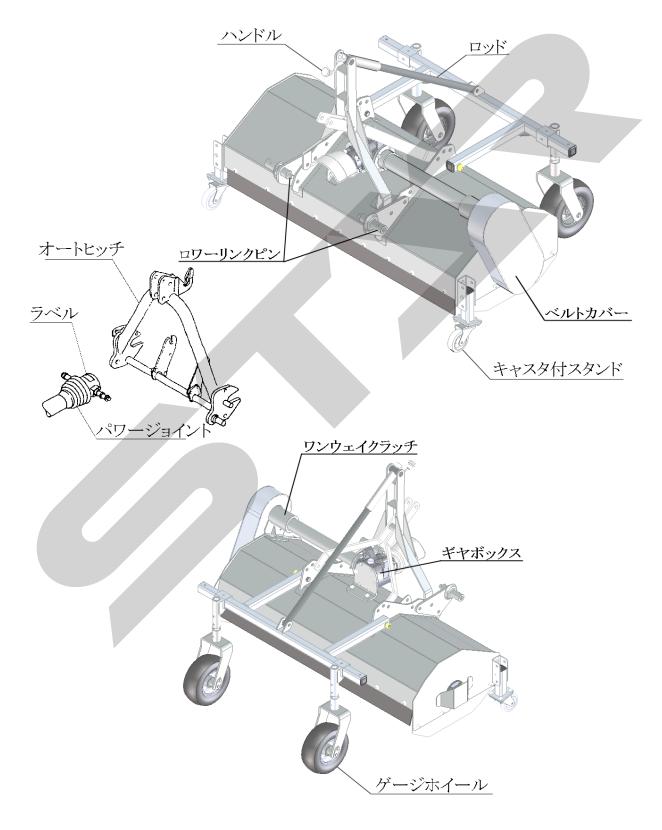
- 1. トラクタ油圧系統に異常はないか・・・15
- 3 給油箇所一覧表

3	作業の仕方	
	1 本製品の使用目的17	3 作 業 要 領17
	2 作業のための調整17	4 運 搬18
	1. 刈り高さの調整 ・・・・・・・17	
	2. タイヤ幅の調整 ・・・・・・17	
4	作業が終わったら	
	1 作業後の手入れ19	3 長 期 格 納 す る 時19
	2 トラクタからの切離し19	
5	点検と整備について	
	1 点 検 整 備 一 覧 表20	2 各 部 の 調 整21
		1. Vベルトの調整 ・・・・・・21
		2. フレールヅメの交換 ・・・・・・21
		3. タイヤの空気圧 ・・・・・・・21
6	不調時の対応	
	1 不 調 処 置 一 覧 表22	

# 1 トラクタへの装着

適切な装着で安全な作業をしましょう。

#### 1 各部の名称とはたらき



#### 1. ゲージホイール

刈高さを調整するのに使用します。

#### 2. ハンドル

ハンドルを回し、ゲージホイールを上下するの に使用します。

#### 3. キャスタ付スタンド

トラクタとのマッチング及び格納時等、フレールモーア単体で移動するのに使用します。

#### 4. ワンウェイクラッチ

トラクタのPTOを停止させたとき、ロータの 回転力を遮断します。

#### 5. オートヒッチ

注:3P・4P等、以下の説明に用いる「P」とは Point (点) の略で夫々3点 (3箇所)、4点 (4箇所)の意味を表します。

(1) トラクタの3点装置 (3P=ロワーリンク 2P+トップリンク1P) を使用して装着 (直装) する作業機を対象に、予めトラクタの3 Pに作業機装着用のフレームを取付けておき、そのフレームに設けられた3Pと作業機側の3Pを、トラクタ3点装置を上下作動することによって、自動的に着脱する方法を「オートヒッチ」と言い、予めトラクタ3Pに装着するフレームのことを「オートヒッチ」との呼び方は、日農工で申し合わされた呼称です。)

この装着状態を 3Pオートヒッチ (略して「3P」) と言います。

(2) オートヒッチフレームに、作業機のPIC 軸と駆動伝達が自動的に連結される受け装置 を設け、前述の3P着脱と同時に、この1Pも 同時に装着する状態を4Pオートヒッチ(略 して「4P」)と言います。

オートヒッチフレームの駆動受部とトラクタ のPTO軸とはパワージョイントで連結されます。 (3) J I S規格により、トラクタ 3 Pの寸法が規定されており、 $\lceil 0 \cdot I$  兼用」タイプと $\lceil I \cdot II$  兼用タイプ」があります。オートヒッチにもこの 2 種類があり、一般的に $\lceil 0 \cdot I$  兼用タイプ」は $\lceil S \rfloor$ 、 $\lceil I \cdot II$  兼用タイプ」は $\lceil L \rfloor$  で区分しています。

「0・I 兼用」の3P・4Pは3S・4Sで表します。

Sタイプのセット区分は次のようになっています。

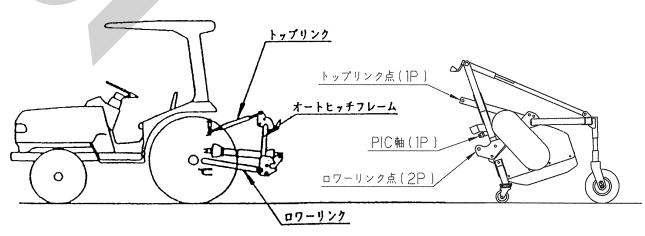
呼び	製品セット構成に伴う装着内容
抽淮	オートヒッチフレームを使用せず、トラク
標準	タ3Pに作業機の3Pを直接装着。
	オートヒッチフレーム、パワージョイント
-0S	は標準では装備なし。他の作業機の3P・
	4Pヒッチで装着。
	オートヒッチフレームが標準装備で 3P
-3S	装着、ジョイントは標準のものをあとから
	装着。
	オートヒッチフレームとクイックジョイ
-4S	ント (パワージョイント; QWM-50)
	が標準装備で4P装着。

#### - 取扱い上の注意 -

オートヒッチ (特4 P含む) で取付ける場合、オートヒッチ側の5 Pオートロータリ金具を取外してください。

そのままで使用されますと5Pオートロータリ 金具と作業機側のヒッチブラケット類が干渉し、 取付かない場合があります。

また、取付いてもオートロータリが誤作動を起こす恐れがあります。



#### 2 適応トラクタの範囲

#### ・注意

・装着するトラクタによっては、前輪荷重が軽く なり、操縦が不安定となって、思わぬ事故をま ねく事があります。

トラクタへフロントウエイトを取付け、バランスを取ってください。

本製品は、適切なトラクタとの装着により的確に性能を発揮できるように設計されています。

不適切なトラクタとの装着によっては、本製品の耐 久性に著しく影響を及ぼしたり、トラクタの運転操作 に著しい悪影響を及ぼす事があります。

この製品の適応トラクタは次のとおりです。

型式	適応トラクタ
MSM1200	
MSMI200-0S •3S •4S	8∼15 k W
MSMI210	(11∼20 P S)
MSMI210-0S • 3S • 4S	
MSM1400	
MSM1400-0S • 3S • 4S	13. 5∼22 kW
MSMI410	(18~30 P S)
MSMI410-0S • 3S • 4S	
MSM1600	
MSM1600-0S • 3S • 4S	17. 5∼29. 5 k W
MSM1610	(24~40 P S)
MSM1610-0S • 3S • 4S	
MSM1800	
MSM1800-0S •3S •4S	22~37 kW
MSM1810	(30∼50 P S)
MSM1810-0S • 3S • 4S	

本製品の適応トラクタより小さなトラクタで使用すると、負荷に対し十分なパワーがでない事があります。 逆に、適応トラクタよりも大きなトラクタでのご使用は、過負荷に対し機体の適正値を越えたパワーが出てしまい、作業機の破損の原因になる事があります。

#### 3 組立部品

#### 1. 解 梱

木枠もしくは金枠に固定している部品をほどいて ください。

#### 2. 組立部品の明細

梱包に同梱されている梱包明細に基づき、必要部 品が揃っているか確認してください。

#### 3. 組 立

各部品の組立に必要なボルト・ナット類は、梱包 明細の符号を参照してください。

#### 4 トラクタへの装着

#### ・警告

・作業機を装着するためにトラクタを移動させる 時、トラクタと作業機の間に人がいると挟まれ てケガをする事があります。

トラクタと作業機の間に人を近づけないでください。

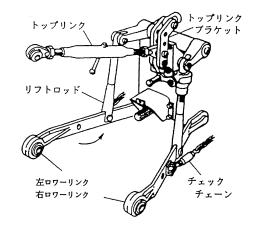
#### ・注意

・作業機をトラクタに装着する時、傾斜地や凹凸 地または軟弱地などで行うと、トラクタが不意 に動き出し、思わぬ事故を起こす事があります。 平坦で地盤のかたい所で行ってください。

#### 1. 装着前の準備

本作業機の装着方法は、標準3点リンク式です。 作業機の下がり量が不足する場合は、リフトロッド の取付穴位置をロワーリンクの前側の穴に移してく ださい。

特殊3点リンク式のロータリーを使用している場合には、トップリンクの連結部を外し、標準3点リンク用の長いトップリンクを使用してください。



#### 2. 標準タイプの装着

トラクタ3点リンクへフレールモーアの3点を連結します。

- (1) カテゴリー0のトラクタはフレールモーアのロ ワーリンクピンを内向きに、カテゴリーIのトラ クタは、ロワーリンクピンを外向きに取り付けて ください。
- (2) トラクタのエンジンを始動して、フレールモーアの左右のロワーリンクピンの位置が合うまで後進して、トラクタをとめてください。 エンジンをとめ、駐車ブレーキをかけてください。
- (3) 左のロワーリンクを連結し、抜け止めにトラクタに付いているリンチピンをロワーリンクピンに差してください。 次に、右のロワーリンクも同じ順字で行ってください。
- (4) トップリンクを連結し、トラクタに付いているピンで固定し抜け止めにリンチピン等を差してください。
- (5) 左右のロワーリンクが同じ高さになるように、 トラクタ右側のアジャストスクリュウで調整し てください。
- (6) PIC軸芯がトラクタ中心におおよそ一致するよう、チェックチェーンでセットし、フレールモーアの横振れをなくしてください。
- (7) スタンド取付部のデルタピンを取りはずし、 スタンドの上下を逆にして、デルタピンでスタ ンドを固定してください。
- (8) 作業状態でフレールモーアが垂直になるよう に、トップリンクの長さを調整してください。

#### 取扱い上の注意

スイッチーつで勢いよく最上部まで自動上昇 する機構を持ったトラクタがあります。手動で 干渉の無いことを確認し、十分余裕をとって上 がり規制を行ってください。

#### 3.0S、3S、4Sタイプの装着

#### · 注意

・トラクタのエンジンをかけたまま、または駐車ブレーキをかけずにオートヒッチフレームをトラクタに装着すると、第三者の不注意により不意にトラクタが動き出し、思わぬ事故を起こす事があります。

エンジンをとめ、駐車ブレーキをかけて行ってください。

#### 取扱い上の注意 -

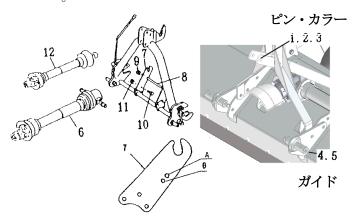
オートヒッチ(特4P含む)で取付ける場合、オートヒッチ側の5Pオートロータリ金具を取外してください。

そのままで使用されますと5Pオートロータリ 金具と作業機側のヒッチブラケット類が干渉し、取 付かない場合があります。

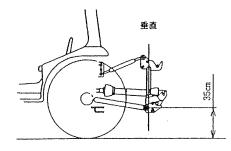
また、取付いてもオートロータリが誤作動を起こ す恐れがあります。

- (1) 本作業機のオートヒッチは日農工標準オート ヒッチ0・I兼用区分B を採用しています。
- (2) 図を参考にして、符号1~5を本体に組み付けてください。
- (3) 0Sの場合は、お手持ちのオートヒッチフレームをトラクタに装着します。
  - 3Sの場合は購入されたオートヒッチをトラクタに装着します。
  - 4Sの場合はオートヒッチフレームに図の符号 7~11 を組み付けてからトラクタに装着します。 (符号8は、符号7のAの穴に取付けてください。)
  - カテゴリー0のトラクタは、オートヒッチフレームのロワーリンクピンを内向きに、カテゴリーIのトラクタは外向きに取り付けてください。 (オートヒッチフレーム装着後、必ずリンチピンで抜け止めを行ってください。)
  - ・フレールモーアのトラクタへの装着をスムーズ に行うため、チェックチェーンは若干ゆるめに 張っておきます。

尚、作業時はチェックチェーンを張ってください。

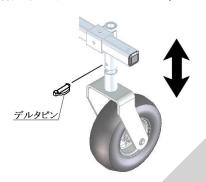


(4) ロワーリンクの地上高が35cm位で、オートヒッチフレームの姿勢が垂直になるようにトップリンクの長さを調整してください。



(5) フレールモーアのゲージホイールのタイヤが下に落ちないよう保持したまま、キャスタ取付部のデルタピンを取りはずし、タイヤ高さを調整し、機体を前傾させてください。

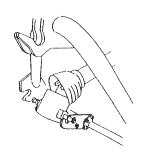
タイヤ高さはデルタピンの取付位置により3段階に調整することができます。



さらにハンドルを左へ回し、機体を前傾させてください。



- (6) パワージョイントの組付け
  - ・3Sタイプ場合、または0Sタイプでお手持の オートヒッチフレームが3Sタイプの場合、オートヒッチフレームにフレールモーアを装着した後、符号12のパワージョイントを組み付けます。(パワージョイントの装着を参照してください。)
  - ・4Sタイプの場合、オートヒッチを下限まで下 げ、トラクタPTO軸に符号6のパワージョイ ントのピン付ヨークを、もう一方はステッカー を上にして、ユニバーサル部よりジョイントを 折り曲げ、軸の細い部分からサポートの長穴に セットします。
  - ・ジョイントカバーが回転しないよう、カバーの チェーンを回転しない所に連結してください。 (パワージョイントの装置を参照してください)

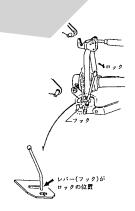


(7) オートヒッチフレーム上部ガイド (フック部) がトップリンク部をすくい上げることができる 位置までトラクタをフレールモーア中心に向け て、ゆっくりバックさせます。

次に油圧を上げて、オートヒッチにフレール モーアを装着させます。

(8) フレールモーア装着後、 オートヒッチのレバーがロックの位置にあり、フック が掛かっていることを確認 してください。

4Sタイプまたは0Sタイプでお手持ちのオートヒッチフレームが4Sタイプの場合はさらにパワージョイントが接続されていることを確認してください。



- (9) スタンド取付部のデルタピンを取りはずし、 スタンドの上下を反転させ、デルタピンでス タンドを固定してください。
- (10) タイヤ高さを (5) と逆の手順で元に戻して ください。

#### 取扱い上の注意

スイッチーつで勢いよく最上部まで自動上昇 する機構を持ったトラクタがあります。手動で 干渉の無いことを確認し、十分余裕をとって上 がり規制を行ってください。

#### 5 パワージョイントの装着

#### • 危険

- カバーのないパワージョイントを使用すると、 巻き込まれてケガをする事があります。 カバーのないパワージョイントは、使用しない でください。
- ・カバーが損傷したまま使用すると、巻き込まれてケガをする事があります。

損傷したらすぐに、取り替えてください。使用前には、損傷がないか点検してください。

・トラクタおよび作業機に着脱する時、第三者の 不注意により、不意にパワージョイントが回転 し、ケガをする事があります。

PTOを切り、トラクタのエンジンをとめて行ってください。

・カバーのチェーンを取り付けないで使用すると、 カバーが回転し、巻き込まれてケガをする事が あります。

トラクタ側と作業機側のチェーンを回転しない所に連結してください。

#### • 注意

• 最伸時の重なりが 100mm を下回ると、ジョイントを回転させた時、破損しケガをする事があります。

最縮時の隙間が25mmよりも小さくなると、ジョイントの突き上げが起きる事があり、ジョイントの破損をまねき、ケガをする事があります。 適正な重なり量で使用してください。

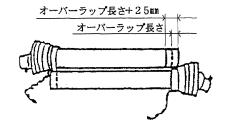
#### 取扱い上の注意

3点リンクで作業機を持ち上げた時、ジョイント鳴りをおこす場合にはロワーリンクの上がり規制を行ってください。

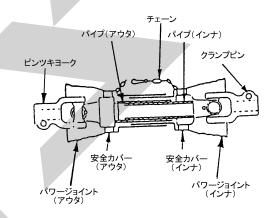
#### 1. 長さの確認方法

- (1) 標準タイプ、3Sタイプの場合
  - ① パワージョイント (アウタ) から、パワージョイント (インナ) を引き抜いてください。
  - ② 3 点リンクを昇降させて、PTO軸とPIC 軸が最も接近する位置で、昇降を停止してくだ さい
  - ③ ピン付きョークのクランプピンを押してPT O軸・PIC軸に連結し、クランプピンがもとの位置に出るまで押し込んでください。
  - ④ 安全カバー同士を重ね合わせた時、安全カバー(アウタ)と安全カバー(インナ)がオーバーラップする位置に目印を付け、さらにオーバ

ーラップした長さに 25mm を加えた位置に印を付け、この印からカバー端部までの長さを切断方法の手順に従って切断してください。



- ⑤ 3 点リンクを昇降させて、PTO軸とPIC 軸が最も離れる位置で、昇降を停止してください。
- ⑥ 安全カバー同士を重ね合わせた時、パイプの 重なり量が100mm以下の場合は、販売店に連絡 し、長いパワージョイントと交換してください。



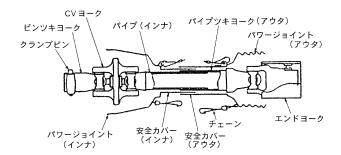
#### (2) 4Sタイプの場合

- ① パワージョイント単位で、最縮長時の安全カバー (アウタ)端部位置を安全カバー (インナ)にマーキングしてください。
- ② パワージョイント (アウタ) から、パワージョイント (インナ) を引き抜いてください。
- ③ 3 点リンクを昇降させて、PTO軸とPIC 軸が最も接近する位置で、昇降を停止してくだ さい。
- ④ ピン付きョークのクランプピンを押してPT O軸と連結し、クランプピンがもとの位置に出るまで押し込んでください。

エンドヨークのピン部をオートヒッチのサポート溝に入れてください。

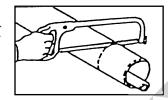
- ⑤ 安全カバー同士を重ね合わせた時、安全カバー(アウタ)端部位置とマーキング位置の間隔が25mm以下の場合は、25mmの間隔を保つように切断方法の手順に従って切断してください。
- ⑥ 3 点リンクを昇降させて、PTO軸とPIC 軸が最も離れる位置で、昇降を停止してくださ い。

⑦ 安全カバー同士を重ね合わせた時、パイプ(アウタ) とパイプ (インナ) の重なり量が 100mm 以下の場合は、販売店に連絡し、長いパワージョイントと交換してください。

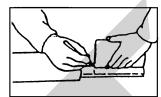


#### 2. 切断方法

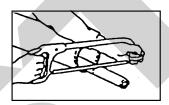
(1) 安全カバーのアウタ ・インナ両方を長い分だ け切ります。



(2) 切り取った同じ長さ をパイプの先端から計 ります。



(3) パイプのアウタとイ ンナ両方を金ノコまた はカッターで切断します。 切断する時は、パイ プの中にウエスを詰め、

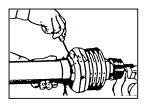


パイプ内面に切り粉が付着するのを防いでください。

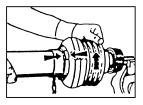
(4) 切り口をヤスリなどでなめらかに仕上げてからパイプをよく清掃し、次にグリースを塗布して、アウタとインナを組み合わせます。

#### 3. 安全カバーの脱着方法

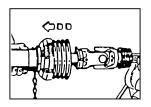
(1) 安全カバーの分解手順① 固定ネジを取り外してください。



② 安全カバーを取り外 外し位置へ回してくだ さい。



③ 安全カバーを引き 抜いてください。



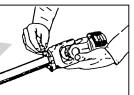
④ スライドリングを 取り出してください。



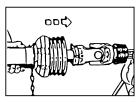
(2) 安全カバーの組立手順 ① ヨークのスライド リング溝とパイプ ( インナ) にグリース を塗ってください。



② スライドリングの つばをパイプ側に向 け、切り口を開いて 溝にはめてください。



③ その上に安全カバーをはめてください。



④ カバーをしっかり止まるまで回してください。



⑤ 固定ネジを締め付けてださい。

#### 4. パワージョイントの連結

- (1) 作業機への連結
  - ①標準タイプ、3Sタイプの場合 ピン付ヨークのクランプピンを押して、PI C軸に連結し、クランプピンがもとの位置に出 るまで押し込んでください。
  - ②4Sタイプの場合 トラクタに装着したオートヒッチフレームで 作業機を装着すると自動的に連結されます。
  - ③0 S タイプの場合

お手持ちのオートヒッチフレームが 4Sタイプの場合には「②4Sタイプの場合」を参照してください。

3Sタイプの場合は「①3Sタイプの場合」を 参照してください。

#### (2) トラクタへの連結

ピン付ヨークのクランプピンを押して、PTO 軸に連結し、クランプピンがもとの位置に出るま で押し込んでください。

#### 注意

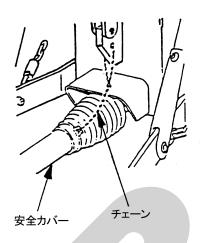
パワージョイントを接続した時、クランプピン が軸の溝に納まっていないと、使用中に外れ、 ケガをする事があります。

溝に納まっているか、接続部を押し引きして確 かめてください。

(3) 安全カバーチェーンの固定

安全カバーのチェーンを固定した所に取り付け、カバーの回転を防いでください。

チェーンは 3 点リンクの動きに順応できる余裕を持たせ、また他への引っかかりなどがないように余分なたるみを取ってください。



# 2 運転を始める前の点検

機械を調子よく長持ちさせるため作業前に必ず行いましょう。

#### 1 運転前の点検

#### 1. トラクタ各部の点検

トラクタの取扱説明書に基づき、点検を行ってください。

#### 2. 連結部の点検

- (1) 3点リンクの連結部点検
  - ① ロワーリンクピン・トップリンクピンのリン チピン・ベータピンは、確実に挿入されているか。
  - ② チェックチェーン張られているか。
  - ③ 不具合が見つかった時は、「1-4 トラクタへの装着」の説明に基づき不具合を解消してください。
- (2) パワージョイントの点検
  - ピン付きヨークの抜け止めのクランプピン が軸の溝に納まっているか。
  - ② ジョイントカバーのチェーンの取付けに余 分なたるみはないか。また、適度な余裕が あるか。
  - ③ ジョイントカバーに損傷はないか。損傷している時は、速やかに交換してください。

④ 不具合が見つかった時は、「1-5-4 パワージョイントの連結」の説明に基づき不具合を解消してください。

#### 3. フレールモーアの点検

点検整備一覧表に基づき始業点検を行ってくだ さい。

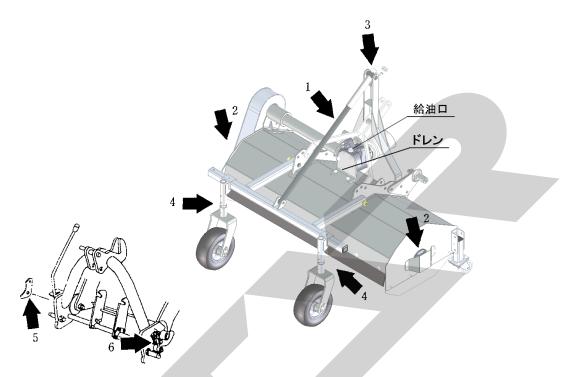
#### 2 エンジン始動での点検

#### 1. トラクタ油圧系統に異常はないか。

- (1) トラクタ油圧を操作し、3点リンクを上昇 し、作業機を持上げた状態で、降下がないか。
- (2) 上記以外に異常が見つかった時は、「6-1 不 調処置一覧表」に基づき処置してください。
- (3) トラクタ油圧系統などに異常がある時は、トラクタ販売店にご相談ください。

#### 3 給油箇所一覧表

- 給油、塗布するオイルは清浄なものを使用してください。
- グリースを給脂する場合、適量とは古いグリースが排出され、新しいグリースが出るまでです。



No	給油場所	箇所	潤滑油の 種 類	交 換 時 間	量	備考
1	ギヤボックス	1	ギヤオイル #90	使用当初25~30時間 その後シーズン毎に交換 始業点検時確認	<b>※</b> 1	作業点検時 確認補給
2	ロータ軸軸受け	2	グリース	使 用 毎	適量	グリースニップル 給 脂
3	ハンドル	1	ıı	11	11	グリースニップル "
4	キャスター部	2	"	"	"	グリースニップル "
5	オートヒッチフレームアーム回転中心	1	オイル	II	"	注 油
6	オートヒッチフレーム フック; R、L	1	グリース	II	"	グリースニップル 給 脂
7	パワージョイント	-	"	II	11	グリースニップ <i>ル</i> "

\*\*1 MSM1200,1400= 1.2L MSM1600,1800= 1.3L

ギヤケースオイル量の確認 ゲージをねじ込まず給油口に乗せ、油量がゲージ先 端の目印の間になる様、給油してください。



# 3 作業の仕方

安全を確認して、慎重に作業してください。

#### 1 本製品の使用目的

休耕田の雑草刈り、野菜作りにおける残幹処理に 使用します。

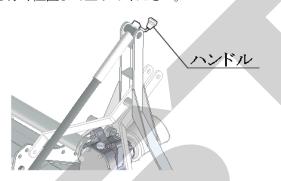
他の用途には使用しないでください。

#### 2 作業のための調整

#### 1. 刈り高さの調整

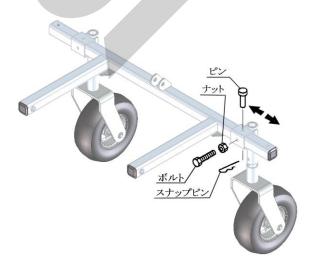
ハンドルをまわし、ゲージホイールを上下させ 刈高さを調整します。ハンドルを右に回すと刈高 さが低くなり、左に回すと刈高さが高くなります。 高さ調整後はストッパでハンドルを固定してくだ さい。

湿田など軟弱地では、ゲージホイールを地面から浮く位置まで上げてください。



#### 2. タイヤ幅の調整

うね幅に合わせてタイヤ幅の調整ができます。 ボルト、ナットをゆるめ、ピン、スナップピン を取り外し、タイヤの位置を調整してください。



#### ・注 意

・湿田などゲージホイールがぬかる軟弱地で作業すると、ゲージホイールを破損することがあります。ゲージホイールを地面から浮く位置まで上げてください。

#### 3 作 業 要 領

#### • 警告

- ・作業をする時、周囲に人を近づけると、機械に 巻き込まれ、ケガをする事があります。 周囲に人を近づけないでください。
- ・作業機指定のPTO回転数を超えて作業すると、 機械の破損により、ケガをする事があります。 指定回転数を守ってください。
- ・傾斜地で速度を出しすぎると、暴走事故をまね く事があります。

低速で作業してください。

下り作業をする時、坂の途中で変速すると、暴走する原因となります。

坂の前で低速に変速して、ゆっくりとおりてください。

・わき見運転をすると、周囲の障害物の回避や、 周囲の人への危険回避などができず、思わぬ事 故を起こす事があります。

前方や周囲へ、十分に注意を払いながら運転してください。

#### ・注意

・機械の調整や、付着物の除去などを行う時、P TOおよびエンジンをとめずに作業すると、第 三者の不注意により、不意に作業機が駆動され、 思わぬ事故を起こす事があります。

PTOを切り、エンジンをとめ、回転部や可動 部がとまっていることを確かめて行ってくださ い。

- (1) PTOの標準回転数は、500~540rpm ですので、この回転数で作業を行ってください。
- (2) 作業速度は2~4km/hです。ほ場の状態、 草の量、トラクタ馬力、運転技術の熟練度等

- によって、トラクタの操作が楽に行えるよう、 作業速度を選んで作業を行ってください。
- (3) ほ場の形などによって、効率の良い作業方法を工夫してください。
- (4) 外周部を刈取る時は、作業速度を低速にして、ほ場の凹凸や障害物にたえず注意して作業してください。
- (5) 作業中に異常な振動や音が発生した時は、 ①ただたに使止し、BTOを切りているかなか
  - ①ただちに停止し、PTOを切りエンジンを止めてください。
  - ②回転部や可動部が止まっていることを確かめてから、原因を調べ、その原因を取り除いて作業を再開してください。
- (6) バックや旋回をする時は、機体を上昇させてください。機体を上昇させないとタイヤのパンクや機体破損の原因となります。

#### 4 運 搬

#### ・注意

・作業機への動力を切らないで走行すると、周囲 の人を回転物に巻き込み、ケガを負わせる事が あります。

移動走行する時は、PTOを切ってください。

- 1. PTOを切ってください。
- 2. トラクタの油圧操作レバーを操作し、作業機を持ち上げてください。
- 3. トラクタの3点リンクの下降を防止して、移動 を開始してください。



# 4 作業が終わったら

#### 1 作業後の手入れ

#### ・注意

- ・作業機の調整や、付着物の除去などを行う時、 PTOおよびエンジンをとめずに作業すると、 第三者の不注意により、不意に作業機が駆動され、思わぬ事故を起こす事があります。 PTO を切り、エンジンをとめ、回転部や可動部がと まっていることを確かめて行ってください。
- ・3点リンクで作業機を持ち上げて点検・調整を 行う時、第三者の不注意により、不意に降下し、 ケガをする事があります。 トラクタ3点リンクの油圧回路をロックして行ってください。
- 1. ボルト、ナット、ピン類の緩み、脱落がないか、 また、破損部品がないか確認してください。 異常があれば、ボルトの増締、部品の交換をし てください。

#### 2 トラクタからの切り離し

#### ・警告

・作業機を切り離すためにトラクタを移動させる 時、トラクタと作業機の間に人がいると、挟ま れてケガをする事があります。

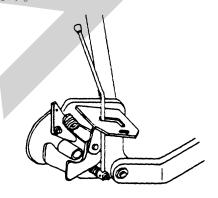
トラクタと作業機の間に人を近づけないでください。

#### ・注意

- ・作業機をトラクタに着脱する時、傾斜地や凹凸 地または軟弱地などで行うと、トラクタが不意 に動き出し、事故を起こす事があります。 平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- (1) フレールモーアをトラクタ又はオートヒッチ フレームから外す時は、スタンドの上下を逆に して、デルタピンでスタンドを固定してくださ い。

次にスタンドが地面に接するまでトラクタの 油圧を降ろし、トラクタのエンジンをとめ、駐 車ブレーキをかけてください。

- (2)・標準タイプはトラクタPTO軸からパワージョイントを外します。次にトップリンクを外し、さらに左右のロワーリンクを外します。
  - ・3Sタイプまたは 0Sでお手持ちのオート ヒッチフレームが 3Sタイプの場合は、ト ラクタPTO軸からパワージョイントを外 します。
- (3) ・0S、3S、4Sタイプは、オートヒッチの レバーを解除の位置にし、フックを下げま す。 フレールモーアのスタンドが地面につくま で、トラクタの油圧を静かに下げ、オート ヒッチフレーム下部のフックがロワーリン クピンガイドから外れていくのを確認しな がら、トラクタをゆっくり前進させて外し ます。



#### 3 長期格納する時

- 1. 機体各部の清掃をしてください。
- 2. 摩耗した部品、破損した部品は、交換してください。
- 3. 給油箇所一覧表に基づき、油脂を補給してください。

また、回転、回転支点およびパワージョイントのクランプピンを含む摺動部には注油し、PTO軸、PIC軸、パワージョイントのスプライン部にはグリースを塗布してください。

- 4. 塗装損傷部は補修塗装、または、油を塗布し、 さびの発生を防いでください。
- 5. 格納は風通しの良い屋内に保管してください。

# 5 点検と整備について

調子よく作業するために、定期的に行いましょう。 機械の整備不良による事故などを未然に防ぐため に、「点検整備一覧表」に基づき、各部の点検整備を 行い、機械を最良の状態で、安心して作業が行える ようにしてください。

#### ・注 意

- ・傾斜地や凹凸地または軟弱地などで行うと、トラクタや作業機が不意に動き出して、思わぬ事故を起こす事があります。
  - 平坦で地盤のかたい所で行ってください。

- ・PTOおよびエンジンをとめずに作業すると、 第三者の不注意により、不意に作業機が駆動され、思わぬ事故を起こす事があります。PTO を切り、エンジンをとめ、回転部や可動部がと まっていることを確かめて行ってください。
- ・3点リンクで作業機を持ち上げて点検・整備を 行う時、第三者の不注意のより、不意に降下し、 ケガをする事があります。

トラクタ3点リンクの油圧回路をロックして行ってください。

#### 1 点検整備一覧表

時間	点検項目	処 置		
新品使用1時間	全ボルト・ナットのゆるみ	増し締め		
使用後 25~30 時間	ギヤケースのオイル	オイル交換		
	① 機械の清掃			
	② ギヤケースのオイル	給油		
	③ 部品脱落・破損	補充、交換		
使 用 毎	④ 各部のボルト・ナットの緩み	増し締め		
(始業終業点検)	⑤ 各部の油もれ	シールチェック、破損時交換		
	⑥ 各部の油脂類	「2-3 給油箇所一覧表」に基づき給油、給脂		
	⑦ フレールヅメの摩耗			
	⑧ タイヤの空気圧			
	① ギャケースのオイル	交換		
	② 各部の破損、摩耗	早めの部品交換		
3 / デン/切 <i>マ</i> が	③ 各部の清掃			
シーズン終了後	④ 各部の給油、給脂	「2-3 給油箇所一覧表」に基づき給油、給脂		
	⑤ 回動支点の摩耗	早めの部品交換		
	⑥ 塗装の損傷	塗装または油塗布		

#### 2 各部の調整

#### 1. Vベルトの調整

Vベルトは、使用しているうちに伸びます。 下記の手順でVベルトの張りを調整してください。

#### 取扱い上の注意

使用初めは特に伸びますので、使用 2~3 時間後 には必ず調整してください。

張りの調整を怠るとVベルトがスリップし、Vベルトの寿命を縮める原因になります。

Vベルトの張りは常に適正にして作業を行ってください。

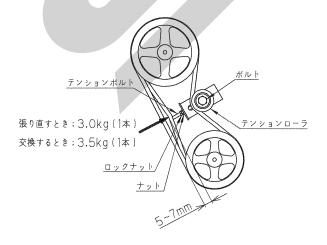
Vベルトを交換する時は、必ずセットで交換してください。交換後 10 分程度試運転し、再度ベルトの張りを調整してください。

- (1) ベルトカバーを外してください。
- (2)テンションローラのボルトを緩めてください。
- (3) テンションボルトのロックナットを緩めてく ださい。
- (4) Vベルトの張り具合をテンションボルトのナットを締め込み調整してください。 Vベルトの 張りはベルト中間でベルト1本に対して、直角 に3.0kg の荷重をかけた時、5~7 mmたわむのが 適正です。

Vベルトを交換する時は、Vベルトの張りがベルト中間でベルト1本に対して、直角に 3.5 kgの荷重をかけた時、5~7 mmたわむように調整します。

交換後10分程度試運転し、再度3.0kgの荷重をかけた時、5~7mmたわむように調整してください。

(5) 調整後、各ボルト、ナットを締め付けてください。



#### 2. フレールヅメの交換

フレールヅメ、シャックル、ボルト、Uナットは摩耗したら早めに交換してください。

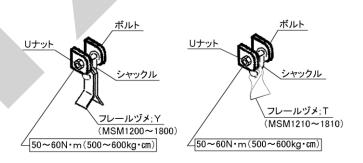
フレールヅメ; Yは両刃で、片側が減っても、 もう片側を使用することができます。 Uナットを ゆるめ、ナイフ取付け方向を逆にした後、しっか り締付けてください。

フレールヅメの摩耗が進行すると、回転のバランスが保てなくなります。摩耗した場合は、フレールヅメを全数交換してください。このときシャックル、ボルト、Uナットも同時に交換してください。

ボルト、Uナットを締付ける時は、締付けトルク 50~60N・m (500~600kg・cm) でしっかり 締付けてください。ボルト、ナットを締付け後、シャックルがスムーズに動くことを確認してください。

#### 取扱い上の注意

フレールヅメ、シャックル、ボルト、Uナットが 摩耗した場合、同時に全数交換してください。 フレールヅメ、シャックル、ボルト、Uナットは、 スター純正部品を使用してください。



#### 取扱い上の注意

フレールヅメをY型からT型へ、またはT型から Y型へ交換すると、回転のバランスが崩れ、振動が 発生することがあります。

フレールヅメを交換する時は、必ず交換前と同一 形状のものに交換してください。

#### 3. タイヤの空気圧

タイヤサイズ	空 気 圧
13×5.00 - 6 - 4PR	280kPa (2.8kgf/cm <sup>2</sup> )

## 6 不調時の対応

い。

#### 1 不調処理一覧表

#### ・注 意

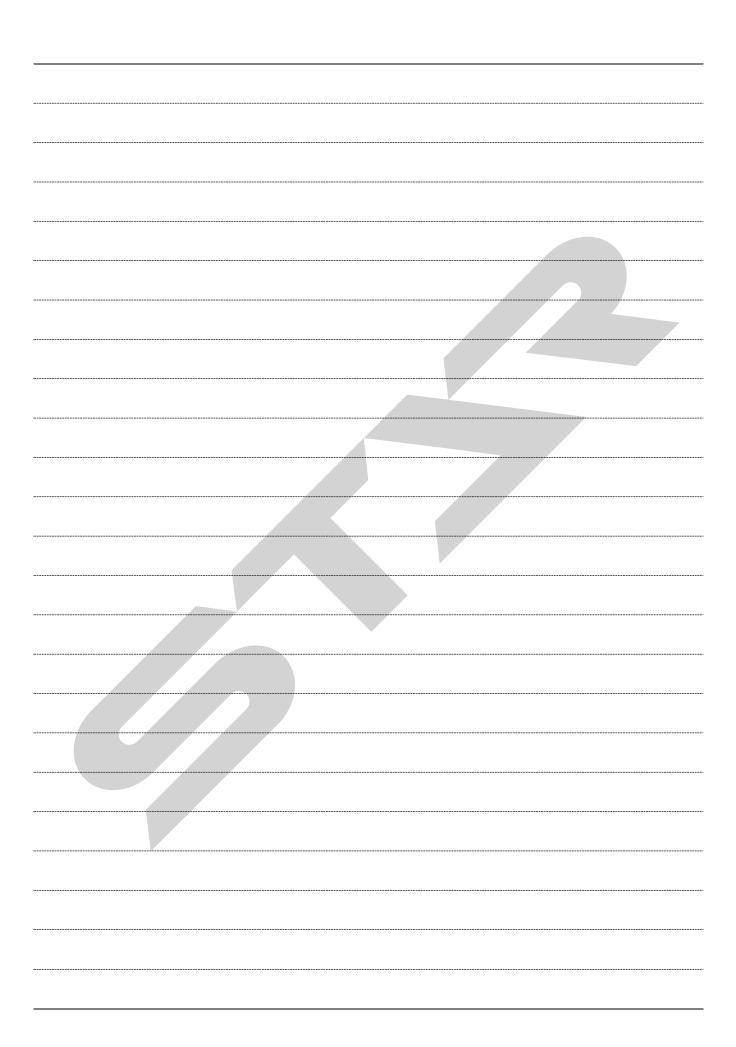
- ・傾斜地や凹凸地または軟弱地などで行うと、トラクタや作業機が不意に動き出して、思わぬ事故を起こす事があります。
  - 平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- ・PTOおよびエンジンをとめずに作業すると、 第三者の不注意により、不意に作業機が駆動さ

- れ、思わぬ事故を起こす事があります。 PTOを切り、エンジンをとめ、回転部や可動 部がとまっていることを確かめて行ってくださ
- ・3点リンクで作業機を持ち上げて点検・整備を 行う時、第三者の不注意により、不意に降下し、 ケガをする事があります。
  - トラクタ3点リンクの油圧回路をロックして行ってください。

箇所	症  状	原 因	処 置
	異常発熱する	ギヤオイルが不足	「2-3 給油箇所一覧表」に基づき給油
ギ	田学文の水上	ギヤの損傷	ギヤの交換
ヤ	異常音の発生	ベアリングの損傷	ベアリングの交換
ボッ	オイル洩れ	PICシャフト部のオイルシールの損傷	オイルシールの交換
クス		プーリ部のオイルシールの損傷	オイルシールの交換
		液状パッキンの劣化	液状パッキン塗直し
		ボルトのゆるみ	ボルトの増し締め
. ).	異常発熱する		
ルト	ベルトがスリップ する	Vベルトの張りが適正でない	「5-2-1 ベルトの調整」に基づいて調整
П	異常音の発生	フレールヅメ取付けボルトのゆるみ	ボルトの増し締め
1	振動の発生	ベアリングの損傷	ベアリングの交換
タ	VII IN THE 1 POTO H	フ1. ルバルの時状 昭芸	フレールヅメの交換
	刈り残しの発生	フレールヅメの摩耗、脱落	フレールヅメ取付け方向変更
ジョイント	田労立の水井	グリース切れ	「2-3 給油箇所一覧表」に基づき給脂
	異常音の発生	ジョイント折れ角が不適格	機体の前後姿勢の修正
	ジョイント鳴り	フレールモーアの上げすぎ	リフト高さの規制

原因や処置の仕方がわからない場合は、下記事項とともに購入先にご相談ください。

- 1. 製品名
- 2. 部品供給型式 (型式)
- 3. 製造番号
- 4. 故障内容(できるだけ詳しく)







本社	066-8555	千歳市上長都1061番地2 TEL0123-26-1123 FAX0123-26-2412
千歳営業所	066-8555	千歳市上長都1061番地2 TEL0123-22-5131 FAX0123-26-2035
豊富営業所	098-4100	天塩郡豊富町字上サロベツ1191番地44 TEL0162-82-1932 FAX0162-82-1696
帯広営業所	080-2462	帯広市西22条北1丁目12番地4 TEL0155-37-3080 FAX0155-37-5187
中標津営業所	086-1152	標津郡中標津町北町2丁目16番2 TEL0153-72-2624 FAX0153-73-2540
花巻営業所	028-3172	岩手県花巻市石鳥谷町北寺林第11地割120番3 TEL 0198-46-1311 FAX0198-45-5999
仙台営業所	983-0013	宮城県仙台市宮城野区中野字神明179-1 TEL 022-388-8673 FAX022-388-8735
小山営業所	323-0158	栃木県小山市梁2512-1 TEL0285-49-1500 FAX0285-49-1560
犬山出張所	484-0894	愛知県犬山市羽黒字合戦橋5番1 TEL 0568-69-1200 FAX 0568-69-1210
岡山営業所	700-0973	岡山県岡山市北区下中野 7 0 4 - 1 0 3 TEL 086-243-1147 FAX 086-243-1269
熊本営業所	861-8030	熊本県熊本市東区小山町1639-1 TEL096-389-6650 FAX096-389-6710
都城営業所	885-1202	宮崎県都城市高城町穂満坊1003-2 TEL 0986-53-2222 FAX 0986-53-2233